OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	スロヴァキアとスロヴァキアの日本学科について
Author(s)	ルカーチョヴァー, エヴァ
Citation	詞林. 2000, 28, p. 44-48
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/67458
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

スロヴァキアと スロヴァキアの日本学科について

エヴァ・ルカーチョヴァー

一

最近までは、スロヴァキアという国は世界中でほとんど知られていなかった。日本でも同様である。それは特に驚くべきことではない。昔からスロヴァキアは大きな国の一部分であり、政治的にもそうだった。だから、独立国としてはまだ若い。スロヴァキアは、古い国だが、歴史的にはいつも他の国の歴史に隠れていた。

その昔、この地域は、とてもいい自然環境だったので、早くから人が住みついた。スラブ民族が、カルパチアの谷に来たのは五世紀と六世紀にかけてだった。八世紀の終わり頃、スロヴァキアの地域に二つの領地があった。八一三年から八三三年にかけて、それらは統合されて、大モラヴィア帝国として誕生した。八六三年に大モラヴィア帝国の君主は、ビザンチンより聖キュリロスとメソジウスという伝道者を招待した。その二人はスラブ文字を草案し、キリスト教を布教した。彼らの影響で古代スラブ語は、ラテン語やギリシャ語に匹敵するまでになった。一〇世紀の初め頃、大モラヴィア帝国は滅び、スロヴァキアは初期の封建制ハンガリーの一部になった。そのあとの何百年間は、スロヴァキアは色々な困難に耐えた。一時的に開放されたのは、第一次世界大戦のあとだった。一九一八年にチェコスロヴァキア共和国が生まれたが、一九三九年に、スロヴァキアが独立して、スロヴァキア共和国となった。

だが、一九四四年、第二次世界大戦の終わりごろ、ヨーロッパでは二番目に大きい、ファシズムに対しての反発があった。一九四五年にチェコスロヴァキアは再建されて、社会主義の国になった。

当時のチェコスロヴァキアの政治経済状態を変えようとする大きな試みは、一九六八年、プラハの春と言われている行動だった。この動きは、アレクサンデル・ドウッブチェックという有名なスロヴァキア人のリーダーのもと、全体主義制度を打ち破り、市場経済と民主主義の要素を持ちこもうとした。しかし、一九六八年八月二一日にソ連および同盟国の軍隊が侵攻してきて、この努力は実らなかった。一九八九年一一月一七日に、ビロウド革命と呼ばれている行動があり、新しい民主主義の社会の建設を始めた。この革命により、憲法にのっとり、チェコスロヴァキアを、二つの独立した国、チェコ共和国とスロヴァキア共和国に分立しようとする動きが出

てきた。そして、一九九三年一月一日に、新しいスロヴァキア共和国が誕生した。

スロヴァキア共和国は、中央ヨーロッパの中心に当たる。地図上においても、ヨーロッパの中心に位置する。近隣国は、西はチェコで、南西はオーストリア、南東はハンガリー、東はウクライナ、北はポーランドである。スロヴァキアの広さは四九・〇三九平方キロメートルで、国土はほとんど山で、八〇%ぐらいは海抜七五〇メートルの山岳地帯である。北と中央スロヴァキアは丘陵地帯である。一番高い山は、ハイタトラス山脈のゲルラハ山で、海抜二六五五メートルある。南スロヴァキアの丘陵地帯を下ると、大事な農業地帯であるドナウ川の平野と東スロヴァキア平野に繋がる。ドナウ川はオーストリア、ハンガリーとスロヴァキアの三つの国を流れる、最も重要な川である。スロヴァキアは、温和な気候で、四季がある。

スロヴァキアには温泉、スキーリゾートとミネラル・ウオーターの源泉が沢山ある。そのため、観光条件は整っている。スロヴァキアには、信じられないくらいの美しい自然があり、神秘的な山脈、きれいな湖、滝と広い高原がたくさんある。スロヴァキアの人口は約五三五万人で、それはヨーロッパで二〇番目の人口である。そのうち、八五・七%はスロヴァキア人で、残りは、他民族の、ハンガリー人、チェコ人、ジプシーなどである。六〇・四%はローマンカトリック教で、あとはプロテスタントと東スロヴァキアでギリシャ正教とロシア正教などである。全部で、一五の宗教がある。スロヴァキアは八つの行政地域があり、首都はブラチスラヴァで、約四五万の人口がある。

スロヴァキアは、有形・無形の価値のあるものがたくさんある。そして、豊富な歴史的文化財がある。その中には、古い歴史の証人である魅力的でユニークな建物がある。私たちの地域には、いろいろなスタイルと状態の歴史的建造物がある。ロマネスク様式の円形建築物、聖礼のゴシック様式建造物、ルネッサンスとバロック様式の荘園、そして各時代が産んだいろいろな建築様式の町の大きな部分がそのままで残されている。視覚芸術においては、歴史的と現代的な最高傑作がある。スロヴァキアの絵画の歴史は、ロマネスク以前から始まっている。スロヴァキアの歴史では、文学も重要な位置を占めていた。九世紀に古代スラブ語が標準語として使われてから、スロヴァキアの文学が始まった。

二

スロヴァキアは独立した国として、とても若い。そのため、スロヴァキアの日本学科も、科学的な分野として、歴史は短い。社会主義の時、日本語を勉強したがっていた人は、チェコのプラハにあるカレル大学で勉強する機会しかなかった。

チェコの日本学科は、五〇年以上の長い歴史がある。レベルは非常に高くて、全ヨーロッパでも有名である。カレル大学で日本語、日本史、日本文学、日本言語学、日本語辞学などを卒業した学者は、ヨーロッパのどんな大学の日本学科を卒業した人にもひけをとらない。他のヨーロッパの国からも、カレル大学で日本学を勉強する希望がある研究者がチェコに来ている。その五〇年間の間には、カレル大学で日本語を勉強した人数は多い。特に優れた学生は、すばらしい日本学者になっている。博士を取って、プラハの科学アカデミーで研究を続けることもできるし、プラハのいろんな大学で日本語を教えたり、他のチェコの町で日本学科を設立したり、外国の有名な日本学科で自分の研究を広げたりしている。

一番理想的なチャンスは、もちろん、卒業してから日本で日本学の研究をすることである。だから、大勢の日本学者は日本で勉強する機会を探している。日本語はヨーロッパの言葉からとても離れている言語なので、自分の国でいくら勉強しても、なかなか完璧になる方法がない。日本語を勉強している人は、たとえ日本で日本学の研究を続けることができたとしても、何年間かは日本語の知識に磨きをかけることが必要である。ヨーロッパでは、すばらしい日本語を話せるヨーロッパ人が、非常に評価されている。また、日本や日本語についての適当な知識があれば、本国でも、他のヨーロッパの国でも、いろんな仕事が手に入るチャンスがでてくる。

たとえば、大学で教えるポジションに興味がなくても、博物館、文化庁、外務省などの日本分科で働くことができる。通訳の仕事もとても大切である。最近は、全世界の国は、お互いに近づく努力をして、だんだん地球村になってきている。通信の発達で一体化した世界は、バベルの塔みたいな言葉の渾沌を整理することが必要であろう。違う民族のコミュニケーションのため外国語を勉強することは、これからもっと重要な問題になってくる。一般の人がみな言葉を勉強するということは無理なことなので、通訳者の仕事は議論の余地もないほど重要である。特にヨーロッパ人にとって、エキゾチックな言葉の知識はめずらしいことだと言われている。だから、日本語の研究は、ヨーロッパで最近人気が増している。

他の分野は、文学の翻訳である。文学は民族の文化と芸術の大切な部分だが、詩か小説を原書で読むことができる人は少ない。翻訳者の責任は、原書のもとで、ある意味で新しい、原書の大切なポイントを守っていて、なおかつ、いい形で原書の芸術的な美をも表している作品を作ることである。世界の文学にとって、翻訳者の存在は必要不可欠となる。

日本語の難しさは、数え切れない表現の華美だけではなく、特に重要な問題は漢字である。ヨーロッパ人が「普通」と感じる言葉と比べると、日本語の勉強はとても難しいチャレンジとなってくる。そのため、日本語を勉強しようとしている大学生のなかには、途中でやめる人の数は、もっと簡単

な言語を勉強している人と比べて多い。

プラハのカレル大学における日本学科の成果は、五〇年間の歴史でかなりのものになった。大学の図書館は専門的な本が溢れていて、いろんな日本学科の分野についての書類が見つけられる。科学アカデミーでもすばらしい日本についての研究材料がある。チェコには、優秀で有名な日本学者、通訳者、翻訳者、日本史学者など何人もいるので、チェコの日本学科は進んでいると言える。多くの日本文学がチェコ語に翻訳されている。例えば、川端康成、安部公房、三島由紀夫、武田泰淳、谷崎潤一郎、芥川龍之介、大江健三郎、夏目漱石、松尾芭蕉などの作品である。「源氏物語」さえもうチェコ語になっている。

三

スロヴァキアの日本学科は、チェコの日本学科のように、社会主義の時に設立された。でも、そのときには、チェコスロヴァキアは一つの国だったので、日本語を勉強したがっていたスロヴァキア人はプラハ、ポーランドのワルシャウ、ロシアのモスクワなどに勉強しに行くしかなかった。ブラチスラヴァの一番有名な大学はコメニウス大学である。コメニウス大学で初めての日本語のコースが設けられたのは一九八六年だった。その年には、日本語を勉強したかったスロヴァキア人の数は、三〇〇人だったが、九人しか選ばれなかった。その九人のなかから、勉強の途中で四人が試験に落ちて、勉強をやめた。卒業したのは、五人だった。私たちのコースは、日本語だけではなく、英語・日本語、通訳・翻訳という専門コースだった。卒業した五人のなかで、四人だけが日本語の研究を続けている。

去年、コメニウス大学で新しい日本学のコースで勉強した大学生が卒業した。ブラチスラヴァの大学の歴史で、それは、二番目の日本語のコースだった。スロヴァキアは、科学アカデミーもある。このアカデミーの東洋学科では、日本語を卒業した研究者は、博士をとることができる。スロヴァキアの日本学科はとても若いので、チェコのレヴェルと比べられるまでには、新しいエネルギーとたくさんの時間が必要だと思われる。若いスロヴァキアの日本学者は、日本で勉強する機会があれば、一生懸命努力し、なるべくたくさんの自分のエネルギーを選ばれた分野の研究に投資すれば、スロヴァキアの日本学科もヨーロッパの水準に達すると信じている。

日本文学で、スロヴァキア語に翻訳されている作品は、あまりない。最初に Viktor KRUPA という日本学者は、川端康成の「眠れる美女」、「雪国」(Spiace krasavice, Snezna krajina, published in 1970.) などを翻訳し、二人目の Karol KUTKA という日本学者は、三島由紀夫の「潮騒」と「愛の乾き」を翻訳した (Priboj, Smad po laske, published in 1980.)。

しかも、スロヴァキア人で日本文学を研究するため、日本の大学に留学したのはこれまで三人しかいない。一人目が一九九二年から、一年半大阪大学に留学したIvan RUMANEKである。彼は、古典を学び、昨年一九九九年六月に紀貫之に関する「KI NO CURAJUKI, japonsky uvod ku kokinsu, Z klasickej japonskej poezie」という論文を発表した（REVUE SVETOVEJ LITERATURY 2/99, Slovensky spolok prekladatelov umeleckej literatury）。在学中は、「源氏物語」も勉強していた。

二人目がMaria MELICHEROVAである。彼女は一九九五年から一九九七年まで北海道大学で三浦綾子の小説の研究をしていた。特に、日本の文学の中でキリスト教がどのように受容されているかに興味があり、三浦綾子をとりあげ、そして、その短編を翻訳した（Ajako Miura: A slubujem, ze ta nikdy neopustim, REVUE SVETOVEJ LITERATURY 2/99, Slovensky spolok prekladatelov umeleckej literatury）。

三人目が私である。一九九三年から一九九五年まで北海道大学で、主に近代文学を勉強した。北海道大学に行く前に、安部公房の「無関係な死・時の崖」という短編集から、「夢の兵士」を翻訳した（Kobo Abe, Snovy vojak, Literarny tyzdennik, 4/93）。帰国後、スロヴァキア科学アカデミーの東洋学科で近代文学と、日本神道についての研究をすすめた。その際、吉本ばななの「キッチン」の一部と俵万智の「もう一つの恋」、「サラダ記念日」を翻訳し（Banana Josimoto: Kuchyna, Maci Tawara: Kvapky casu, Literarny tyzdennik, 6/97）、また、「チョコレート革命」のいくつかの詩も翻訳した（Maci Tawara: Cokoladova revolucia, REVUE SVETOVEJ LITERATURY 2/98, Slovensky spolok prekladatelov umeleckej literatury）。その後一九九八年から、大阪大学の国文学研究室に所属し、近代文学の研究を続けている。特に、安部公房の小説に焦点をあて研究している。博士論文も彼の作品について書く予定である。私は第二次世界大戦後に書かれた日本の作品に興味があり、新田次郎の「だっぺの歌」という短編も翻訳した（Dziro Nitta: Zevrajove basne, REVUE SVETOVEJ LITERATURY, Slovensky spolok prekladatelov umeleckej literatury 2/99）。今後、安部公房の「砂の女」もスロヴァキア語に翻訳したいと考えている。

（Eva Lukáčová　本学大学院博士後期課程）